

大阪大谷大学

教職教育センター紀要

第 7 号

大阪大谷大学教職教育センター紀要第 7 号発刊にあたって	藤村 裕爾… 1
《論文》	
中学生における数学論理と日常生活での論理活用の関連	竹歳 賢一… 3
《研究ノート》	
体育教員の資質能力に関する研究 ——発生運動学的視点に立った資質能力の養成に向けて——	三木 伸吾… 15
人権教育と私	井上 雅彦… 24
《事業報告》	
平成 27 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告	藤村 裕爾… 31 峯山美智子 川合 智子 岡崎由紀美
面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」 ——84% が教採合格！「学校教育演習Ⅱ・教育学特講Ⅰ」が目指した力——	浦部 孝英… 46
教師のお仕事入門 ——小学校・中学校・高等学校体験——	井上 雅彦… 55

2016 年 3 月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 7

Message from the Center Director	FUJIMURA, Yuji	1
《Article》		
Mathematical Logics and its Daily-Life-Utilization among Secondary School Students	TAKETOSHI, Kenichi	3
《Research Notes》		
A Study on Improvement of Physical Education Teaching Competence from the Phenomenological Movement Theory in Sports	MIKI, Shingo	15
Human Right Education and Myself	INOUE, Masahiko	24
《Activity Reports》		
Osaka Ohtani University Teacher Training Support Center Activities in 2015	FUJIMURA, Yuji MINEYAMA, Michiko KAWAI, Tomoko OKAZAKI, Yukimi	31
Successful Interviews Start with Greeting, then, Smile, Dream and Goals, and Energy : Competence Aimed to Achieve through “School Education Practicum II” “Special Lecture on Pedagogy I”, which enabled 84% of the Participants to Pass Teacher Recruitment Tests.	URABE, Takahide	46
Report on Teacher Training Pre-practicum Courses at Primary, Secondary and High schools.	INOUE, Masahiko	55

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【事業報告】

平成 27 年度

「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

藤村 裕爾* ・ 峯山美智子**

川合 智子*** ・ 岡崎由紀美****

I. 平成 27 年度

1. 新たな取り組み

①チャレンジテスト対策の強化

平成 25 年度より大阪府教育委員会が実施している教員採用試験の前段階である「大阪府教員チャレンジテスト」について、これまで春期と夏期の長期休暇期間中に対策講座を実施してきたが、平成 27 年度はセンター長が中心となり、直前期に複数回、対策講座を実施した。対策講座の情報や資料等は、学内の学習支援システムに掲載し、学生への情報提供に努めた。

②実技対策講座の充実

例年、学生の夏期休暇中に実施している「体育実技対策講座」を 6 月より実施した。直前になって慌てる学生もなく、8 月に実施した対策講座では、全員が自信を持つことができ、高いモチベーションで試験に臨むことができた。

③教育改革推進プロジェクトとの連携

5 月より平成 28 年 1 月までの毎週火・水・金曜日の午後、教職教育センターのグループ学習コーナーにて、学生の協調学習の支援を行った。

1. 2 回生が教員より与えられた課題を分担して、個人学習する。各々が学習したレポートを上回生がティーチングマスターとしてチェックし、完成した課題レポートを学内の学習支援システムを利用し、発信する。個人学習の成果を共有することで他の学習者との比較や深い理解へ繋げることが出来た。

※①②についての詳細は、後述のⅣ. 行事報告参照

*大阪大谷大学教職教育センター長

**大阪大谷大学教職支援課長

***大阪大谷大学教職支援課長補佐

****大阪大谷大学教職支援課課員

2. 組織および配置

平成 27 年度の教員、職員の配置は次のとおりである。

教員：センター長（兼務） 1 名
 センター教員（兼務） 2 名
 教職教育担当特任教授 2 名

職員：教職支援課 課長（兼務）1 名、課長補佐 1 名、課員 2 名
 派遣職員 2 名（合計：専任 4 名、派遣 2 名）

センター長および、教職教育担当特任教授の業務内容も変更なく運営に携わっていただいた。

教職教育センター室の開室時間

平成 21 年度	平日	9:00～17:30
	土曜	9:00～12:30
平成 22～27 年度	平日	9:00～11:20 12:20～17:30
	土曜	9:00～12:30

II. 業務内容

1. 教職支援課の役割

教員免許状を取得するには、教職課程をはじめ、免許状取得に必要な科目の履修が必要である。教職支援課では履修登録時の履修相談に始まり、前年度の内諾から始まる教育実習の事務的な手続き、教職実践演習や履修カルテに関する業務、教員免許状の申請に関する業務等に携わっている。

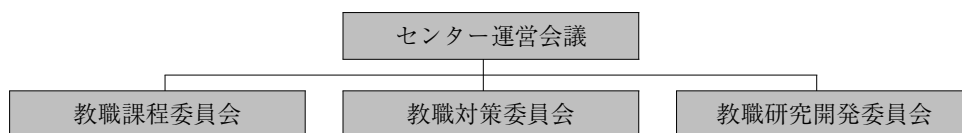
教職に就くためには、学力だけでなく学校現場に必要な実践力が不可欠である。教職支援課は、入学後早い段階で教職を目指す学生に対して、大学の授業や自学自習だけでは補えない実践力を養うことを目指し、学校現場を訪問する「教師のお仕事入門」を実施している。さらに「学校支援学生ボランティア」や授業である「インターンシップ」等への参加を推奨している。現場を数多く体験することで、教師として必要な資質能力を高めてほしいと願い、学生および卒業生の教師になる夢が達成するまで継続した支援を行っている。

その他、年間を通して各種行事を計画し、タイムリーな情報提供や各種対策講座を行い学生の知識と実践力の向上及びモチベーション維持を図っている。

2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教育職員養成課程委員会、教職対策委員会、教職研究開

発委員会を 3 本柱にしてセンターを運営している。



教職課程委員会

第 1 回

日時：平成 27 年 4 月 15 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：教職課程委員長選出について

平成 27 年度の教育実習等（訪問担当）について

教育実習に係る誓約書について

平成 27 年度免許状更新講習実施について

平成 27 年度教職課程予算について

第 2 回

日時：平成 27 年 7 月 22 日（水）16 時 20 分～17 時 30 分

場所：第 1 会議室

議題：歴史文化学科教職課程における必修科目について

中学校・高等学校（保健体育）教職課程科目の改定について

第 3 回

日時：平成 27 年 9 月 30 日（水）17 時 00 分～18 時 00 分

場所：第 1 会議室

議題：平成 27 年度「教育実習」の課題について

平成 27 年度「介護等の体験」の課題について

教免取得に必要な科目「体育」について

平成 28 年度教職課程科目の改定について

教職実践演習について

第 4 回

日時：平成 28 年 1 月 27 日（水）18 時 15 分～19 時 00 分

場所：第 1 会議室

議題：「教育実習」の誓約書について

教職課程に関する規程の変更について

第 5 回

日時：平成 28 年 3 月 16 日（水）12 時 20 分～13 時 00 分（予定）

場所：第 2 会議室

議題：「教育実習」の誓約書について

教職課程に関する規程の変更について

教育実習日誌の提出について

平成 28 年度教職実践演習について

教職対策委員会

第 1 回

日時：平成 27 年 4 月 3 日（金）12 時 00 分～13 時 00 分

場所：センター会議室

議題：教職対策委員長選出について

教員採用試験「大学推薦」推薦基準について

教員採用試験願書の出願について

第 2 回

日時：平成 27 年 5 月 13 日（水）12 時 20 分～13 時 00 分

場所：センター会議室

議題：平成 27 年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクトについて

第 3 回

日時：平成 27 年 6 月 24 日（水）16 時 20 分～17 時 30 分

場所：センター会議室

議題：教員採用試験「大学推薦」の面接報告と内規の策定について

大学一斉休業中の教職教育センター開放について

教員採用試験二次面接対策について

教員採用試験の受験状況調査について

第 4 回

日時：平成 27 年 7 月 22 日（水）16 時 20 分～17 時 30 分

場所：第 1 会議室

議題：平成 28 年度「教職基礎演習」について

平成 27 年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクトについて

第 5 回

日時：平成 27 年 9 月 30 日（水）16 時 20 分～17 時 30 分

場所：第 1 会議室

議題：平成 27 年度教員採用試験途中結果報告について

平成 28 年度「教職基礎演習」について

第 6 回

日時：平成 28 年 1 月 27 日（水）18 時 15 分～19 時 00 分

場所：第 1 会議室

平成 28 年度「大学推薦」の手順について

平成 28 年度大学一斉休業中の開室について

第 7 回

日時：平成 28 年 3 月 16 日（水）12:20～13:00（予定）

場所：第 2 会議室

平成 28 年度「大学推薦」の手順について

平成 28 年度大学一斉休業中の開室について

次年度対策委員の選出について

教職研究開発委員会

第 1 回

日時：平成 27 年 4 月 7 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：委員長・副委員長の選出

センター紀要 6 号について

第 2 回

日時：平成 27 年 1 月 6 日（水）12 時 20 分～12 時 55 分

場所：センター会議室

議題：センター紀要の現状報告について

平成 28 年度教職研究開発委員会の体制について

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

《教職課程》

平成 27 年度入学生

文学部日本語日本文学科、歴史文化学科、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の 3 学部 5 学科および教育福祉専攻科、大学院文学研究科日本文学専攻、文化財学専攻の 2 専攻に教職課程が設けられている。

本学で取得できる免許状

学部…幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・社会・保健体育）、高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史・公民・保健体育・福祉）、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害・肢体不自由・病弱）、

専攻科…幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（国語・外国語（英語））

大学院…中学校教諭専修免許状（国語・社会）、高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史）

《教育実習》

教育実習に行く前年度に、教育実習内諾オリエンテーションを実施し出席する人数等で教育実習を希望する学生数を把握している。平成 25 年度から平成 27 年度の人数は表 1 のとおりである。（「教育実習生数」には、科目等履修生を含む。）

表 1 内諾オリエンテーションおよび教育実習生数一覧

年度	校種	内諾オリエンテーション出席者数※	教育実習生数
25 年度 実習	幼稚園	103	96
	小学校	102	128
	中・高等学校	162	130
	特別支援学校	110	104
	計	477	458
26 年度 実習	幼稚園	119	111
	小学校	104	94
	中・高等学校	172	149
	特別支援学校	97	94
	計	492	448
27 年度 実習	幼稚園	115	107
	小学校	118	114
	中・高等学校	165	126
	特別支援学校	58	54
	計	456	401

※実習前年度に実施

《介護等の体験》

介護等の体験では、毎年問題点が浮上しており、それらの問題点を考慮し、オリエンテーションでの事前指導方法等は改善を重ねてきた。平成 27 年度は、施設での体験 1 か月前「直前オリエンテーション」に加え、支援学校の「直前オリエンテーション」を実施した。その目的

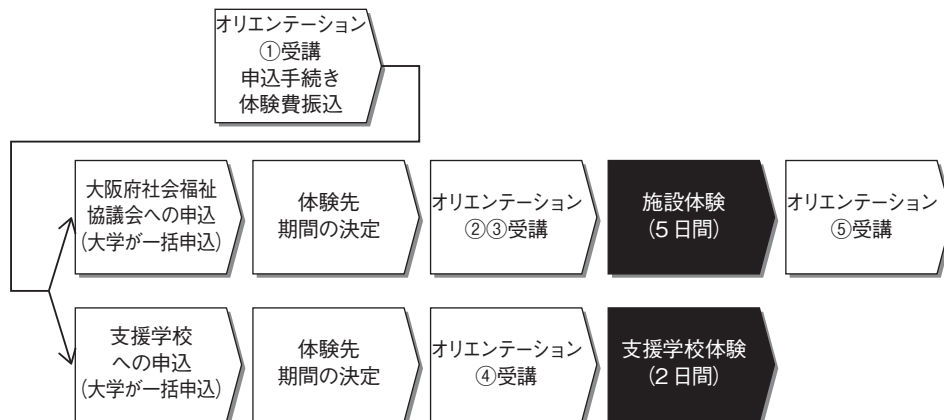
は、支援学校での心構えや子どもと関わる際の注意点を再度確認するためである。これにより、体験意欲の向上につながり遅刻者等が激減した。しかし、一部の学生においては、オリエンテーションの内容を理解しないまま体験に行き、施設や支援学校へご迷惑をかける事態になる場合がある。今後も「介護等の体験」意義や内容理解に重点を置き指導に努めていきたい。

表 2 介護等の体験者数

	学科	申込者数		終了者数※	
		前期	後期	前期	後期
平成 25 年度	日本語日本文学科	4	9	4	9
	英米語学科	5	11	5	10
	文化財学科	9	7	7	7
	教育福祉・教育学科	26	116	23	113
	人間社会学科	11	60	8	58
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	55	205	47	199
平成 26 年度	日本語日本文学科	10	11	10	10
	英米語学科	1	0	1	0
	文化財学科	1	2	1	2
	教育福祉・教育学科	3	96	3	94
	人間社会学科	2	2	1	2
	スポーツ健康学科	0	64	0	57
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	17	177	16	167
平成 27 年度	日本語日本文学科	3	13	2	7
	文化財学科	1	5	1	4
	教育福祉・教育学科	8	73	8	65
	人間社会学科	14	2	9	1
	スポーツ健康学科	14	50	7	44
	科目等履修生	0	0	0	2
	計	40	143	27	123

※…施設 5 日間、支援学校 2 日間両方の体験終了者数

平成 27 年度「介護等の体験オリエンテーションの流れ」



4. 免許状更新講習

平成 25 年度・平成 26 年度と同じく 4 講習を実施した。

表 3 免許状更新講習参加者数

年度	講座名	領域	実施日	時間	定員	受講者数
平成 24 年度	特別支援教育講座	選択	8月3日(金)～7日(火)	18	50	57
	幼児教育講習	選択	8月6日(月)	6	60	17
	学校教育講習	選択	8月7日(火)	6	60	21
		選択	8月8日(水)	6	60	8
	計					103
平成 25 年度	特別支援教育講座	選択	8月2日(金)～6日(火)	18	50	44
	幼児教育講習	選択	8月5日(月)	6	60	13
	学校教育講習	選択	8月6日(火)	6	60	4
	中学・高等学校教育講習	選択	8月7日(水)	6	60	4
	計					65
平成 26 年度	特別支援教育講座	選択	8月1日(金)～5日(火)	18	50	50
	幼児教育講習	選択	8月4日(月)	6	60	33
	学校教育講習	選択	8月5日(火)	6	60	12
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(水)	6	60	7
	計					102
平成 27 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(金)、8月1日(土)、8月3日(月)	18	50	53
	幼児教育講習	選択	8月4日(火)	6	60	20
	学校教育講習	選択	8月5日(水)	6	60	7
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(木)	6	60	10
	計					90

5. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

今年度は「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第 7 号を発行することとなる。

Ⅲ. センター独自のプログラム

センターでは、教員免許を取得するだけにとどまらず、教員に求められる資質を身につけ、学校現場へ送り出すために一貫した学生就職支援を実施している。

具体的には、「実践力向上プログラム」として、1. 教師のお仕事入門 2. 学校支援学生ボランティア 3. 教育インターンシップ 4. 現場実践経験基礎講座があり、人間力を磨く機会となっている。また、「筆答対策プログラム」として、5. キャリア教育科目 6. 基礎学力向上講座（通称：タニ☆スタ 6） 7. 教員採用試験対策講座（長期休暇期間中実施） 8. タニスパ・タニスポ 9. DVD 講座があり、教員に必要な知識と専門性を高めるための支援を行っている。

その他、各種行事や実技対策講座等を通じ、最新の教育情報を提供している。

1. 教師のお仕事入門

「教師のお仕事入門」は、近隣の小学校、中学校、高等学校にご協力いただき学校現場を訪問し、児童・生徒との交流を目的としている。

※詳しくは、後述の「教師のお仕事入門」に記載

2. 学校支援学生ボランティア

学校現場で先生の補助や児童・生徒の授業支援を行うもので、1 回生から参加することが可能である。ボランティア活動に際しては、事前・事後の研修を課し、学生たちへ先生としての心構えを指導するとともにモチベーションの維持を図っている。

3. 教育インターンシップ

教育実習に行く前に学校現場を体感することで、スムーズに教育実習へと臨むことが出来るように設定された正科目で、2 回生以上の学生が履修できる。教育現場を知ることで、自分の課題を見つけ、課題を克服し、実践力向上へとつなげている。

4. 現場実践経験基礎講座（公開講座）

この講座では、現職教員、指導主事等の講師をお招きし、学校現場の現状を講義していただいている。授業は公開とし、現場経験の少ない学生にとって、実践的指導力を身につける貴重

な機会と考えている。今年度の「現場実践経験基礎講座」は、表 4 のとおり実施した。

表 4 平成 27 年度「現場実践経験基礎講座」一覧

	月日	テーマ	講師	科目
1	5月9日(金)	学力の課題と現状「学力向上の取組等について」	宇野木邦治	学校教育演習Ⅱ
2	5月16日(金)	生徒指導上の課題と対策「いじめ・不登校を中心に」	森田 好一	学校教育演習Ⅱ
3	10月17日(金)	小学校における総合的な学習の実践	志野 善崇	総合的学習の研究
4	10月31日(金)	小学校における総合的な学習の実践	大西 亮一	総合的学習の研究
5	11月21日(金)	中学校における総合的な学習の実践	森山 伸治	総合的学習の研究
6	12月12日(金)	教員をめざすあなたに	岩井智代子	学校教育演習Ⅰ

5. キャリア教育科目

教員として必要とされる教養や実践力を身につけるための正課授業として、平成 27 年度は以下の科目が設置された。

- 教職基礎演習Ⅰ ○教職基礎演習Ⅱ ○教職基礎演習Ⅲ
- 学校教育演習Ⅰ ○学校教育演習Ⅱ
- 教職基礎英語 ○教職文章表現 ○教職基礎社会（日本史）

6. 『基礎学力向上講座』

教員に求められる知識の育成と向上を目指し、平成 25 年度より行っている「基礎学力向上講座」（学内通称名「タニ☆スタ 6」）を引き続き平成 27 年度も実施した。

大阪府のチャレンジテストや教員採用試験の一次筆答試験が教職教養に特化されたことに対応し、教職教養クラスのさらなる充実を図った。平成 26 年度の反省を踏まえ、講師手配の徹底と確認を怠らず、基礎クラスの開始時期を後期に設定することで講師不足問題を解消した。

開講時間は、授業終了後の 6 限を利用していたが、正課の補講が 6 限に設定されることが徐々に増え、補講出席による講座欠席者への処置として、該当する講座を録画し、希望者には録画で学習できるように努めた。

表 5 平成 27 年度タニ☆スタ 6 受講者数

学科名	クラス	A	B	C	D	E	F	計
	学年							
日本語 日本文学科	4		1					1
	3						2	2
	2						1	1
	1					3	5	8
英米語学科	4							0

文化財学科 歴史文化学科	4							0
	3							0
	2			1	2			3
	1					1	1	2
教育学科	4	15	11					26
	3	3			9	4	1	17
	2			1	1	4	3	9
	1			4	1	33	35	73
人間社会学科	4		1					1
	3				2			2
	2					1	2	3
	1			1		3		4
スポーツ 健康学科	4	1	13					14
	3			1	6	2	3	12
	2		1					1
	1					1	2	3
合計		19	27	8	21	52	55	182

7. 教員採用試験対策講座（長期休暇期間中実施）

長期休暇期間を利用して実施する短期集中の講座。教員採用試験の頻出問題を中心とした教材を用いて、押さえるべきポイントを学ぶ講座。この講座をきっかけとして各自の弱点を見つけ、今後の学習につなげることを目的としている。

8. タニスパ・タニスポ

i-pad を利用し、教員採用試験の過去問題を解説したビデオを視聴学習できるシステム。空き時間を利用しての学習が可能であるため、クラブ活動やボランティア活動との両立をする人にとって、有効な学習方法の一つとなっている。

9. DVD 講座

教員採用試験の頻出領域の解説が収録された DVD を視聴し、学習する方法。タニスパ・タニスポと同様、時間を有効活用できる学習方法の一つである。

IV. 行事報告

センターで実施する行事は、前年度末に翌年度 1 年間分の行事を計画するが、全国的に教員採用試験の要項発表が早くなっていることなどを受け、平成 26 年度同様に前倒しの計画を立

てた。

昨年度、夏期一斉休暇中に行った教職教育センターの開室も引き続き実施した。

今年度の行事で、特記する行事を以下のとおりまとめた。

1. チャレンジテスト対策講座

平成 26 年から始まった「大阪府教員チャレンジテスト」について、1、2 回生の学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせるために、教員を目指す学生への受験を促している。

その対策として、教職教養の初歩的な内容を押さえ、基礎的な問題に対応できる力を身につけることを目標に 5 日間の日程で講座を実施した。

表 6 チャレンジテスト対策講座 参加者人数

学年	平成 26 年度					平成 27 年度				
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計
参加者数	7	40	41	1	89	8	32	35	1	76

また、直前には、教職教育センター長が学習のポイントと学習方法を中心とした講座を実施した。受講申込者数は 158 名。日程と内容は表 8 のとおり。

表 7 大阪府教員チャレンジテスト直前対策講座

	日にち	時限	内容
1	10 月 14 日 (水) 予備日 10/19 (月)	6 限	ガイダンス、服務規律
2	10 月 21 日 (水)	5 限	教育課程・学習指導要領、教育法規
3	10 月 30 日 (金)	6 限	教育法規他
4	11 月 11 日 (水)	5 限	生徒指導、人権教育、支援教育
5	11 月 20 日 (金)	6 限	教育時事他

次年度以降も充実した内容が継続するよう、学生への呼びかけを怠らず、講座を実施したいと考えている。

2. 実技対策講座

例年 8 月の教員採用試験実技試験の直前に実施していた「体育実技対策講座」について、以前は、直前期の確認を大きな目的として実施していたが、近年、試験直前になって「泳げない」ことが判明した学生が複数名いて、その指導に多くの時間を割くこととなった。その反省から、平成 27 年度は、6 月から水泳練習を開始した。8 月には、例年通り器械体操やボール運動の対策も合わせて行った。また、4 回生以外の学生へも早期からの参加を促した。日程と参

加者数は以下の通りである。

表 8 体育実技対策講座 参加者

	日にち	時限	参加者数	
			4 回生	4 回生以外
1	6 月 27 日 (土)	4 限	12	2
2	7 月 3 日 (金)	3 限	16	2
3	7 月 24 日 (金)	3 限	7	0
4	8 月 7 日 (金)	1・2 限	20	13
5	8 月 8 日 (土)	1・2 限	26	4
6	8 月 18 日 (火)	2・3 限	26	6

3. 教師塾（教員採用試験）面接・エントリーシート対策講座

教師塾入塾選考が年々加熱していることから、入塾のための対策を早める必要があり、年度末の春期休業中に教職オリエンテーション「エントリーシート対策」を実施することとした。

日時：①平成 28 年 2 月 24 日 (水) 2 限 参加者数：22 名

②平成 28 年 3 月 2 日 (水) 2 限 (実施予定)

表 9 教師塾合格者数

各自治体教師塾	平成 26 年度合格者数	平成 27 年度合格者
大阪教志セミナー	23	22
大阪市教師養成講座	6	5
堺教師ゆめ塾	15	10
奈良県ディアティーチャープログラム	0	4
その他自治体	1	0
合計	45	41

ここに挙げた以外の行事実況は、次頁表 10 のとおりである。

以上、平成 27 年度の教職教育センター事業活動をまとめた。

平成 28 年度も、センター教職員一同新たな気持ちで、教職を目指す学生の支援を一層充実させていきたいと願っている。

平成 27 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

表 10 平成 27 年度 教職教育センター 年間行事一覧

	月	日(曜)	時間	行事名	内容		
新年度 オリ	4	オリ 期間中		新入生対象オリエンテーション	教職教育センターの利用案内&行事について		
				2~4回生教職課程履修者・履修予定者対象 オリエンテーション	教職教育センターの利用案内・行事・教職課程履修上の注意		
教育実習	H27 年度実習	7日(火)	14:00~	直前オリエンテーション(幼)	実習の必要書類配付と説明		
		4	15日(水)	5限 16:20-17:50	直前オリエンテーション(小)	実習の必要書類配付と説明	
			22日(水)	4限 14:40-16:10	直前オリエンテーション(中・高)	実習の必要書類配付と説明	
			22日(水)	5-6限 16:20-19:30	直前オリエンテーション(特支)	実習の必要書類配付と説明 直前の注意	
	H28 年度実習 (予定者)	4	15日(水)	4限 14:40-16:10	内諾オリエンテーション(中・高)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)	
		5	13日(水)	1限 9:00-10:30	内諾オリエンテーション(特支)①	次年度実習のための希望調査	
		7	22日(水)	5限 16:20-17:50	内諾オリエンテーション(特支)②	実習校の発表とリーダーの選出	
		9	30日(水)	4限 14:40-16:10	内諾オリエンテーション(特支)③	「教育実習依頼書」についての説明	
		7	8日(水)	5限 16:20-17:50	内諾オリエンテーション(小)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)	
			15日(水)	5限 16:20-17:50	内諾オリエンテーション(幼)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)	
介護等の 体験	H27 前期	4	18日(土)	1・2限 9:00-12:10	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について 実習上の注意事項	
		6	17日(水)	5限 16:20-17:50	介護等の体験オリエンテーション④	特別支援教育について	
			20日(土)	1限 9:00-10:30	介護等の体験オリエンテーション④ <予備日>		
	H27 後期	4	6日(月)	2限 10:40-12:10	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」実習 申し込み手続きについて	
			10日(金)	2限 10:40-12:10	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>		
		9	16日(水)	1・2限 9:00-12:10	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について 実習上の注意事項	
		H28 前期	9	16日(水)	3限 13:00-14:30	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」実習 申し込み手続きについて
	10		3日(土)	1限 9:00-10:30	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>		
			11日(水)	5限 16:20-17:50	教員免許状一括申請説明会	平成28年3月免許状取得見込み予定の4回生・専攻科生・大学院生対象 教員免許状授与申請書の配付と説明	
	教職オリ エンテー ション	1 回生	6	9日(火)	昼休 12:15-12:55	1回生 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ	学校の先生になるには？
12			1日(火)	昼休 12:15-12:55	1回生 教職オリエンテーション	どんな勉強をするの？	
2 回生			6	2日(火)	昼休 12:15-12:55	2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 勉強の進め方、資質の向上について講義
			10	14日(水)	5限 16:20-17:50	2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	小・中・高・特支 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義
3 回生			5	9日(土)	3限 13:00-14:30	3回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演
			10	7日(水)	5限 16:20-17:50	3回生 教職オリエンテーション 筆記試験対策を中心に	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演
		11	25日(水)	5限 16:20-17:50	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)	
		1	6日(水)	5限 16:20-17:50	3回生 教職オリエンテーション 教員・幼稚園教員の魅力と採用試験について	次年度の教員採用試験に向けての最新情報と対策 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む)	
幼稚園 オリ エン テー ション		1・ 2 回生	6	23日(火)	昼休 12:15-12:55	1・2回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	幼稚園教員希望者 幼稚園の先生になるには？
			12	15日(火)	昼休 12:15-12:55	1回生 幼稚園オリエンテーション	勉強の進め方、資質の向上について講義
	11		18日(水)	5限 16:20-17:50	2回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	幼稚園教員希望者対象 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義	
	3 回生	5	19日(火)	昼休 12:15-12:55	3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	学習方法・情報収集について (私立幼稚園を含む) (注)予備日は開講しないこともあります。	
		29	29日(金)	昼休 12:15-12:55	3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって <予備日>		
		11	11日(水)	4限 14:40-16:10	3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)	
		全	10	28日(水)	4限 14:40-16:10	幼稚園・保育所・福祉施設ガイダンス	採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演(就職課と合同実施)
	お仕 事 入 門	5	20日(水)	2限 10:40-12:10	1回生 教師のお仕事入門(小学校)	授業見学&児童との交流 グループに分かれて、教室を訪問	
		7	1日(水)	2限 10:40-12:10	1回生 教師のお仕事入門(小学校)	授業見学&児童との交流 グループに分かれて、教室を訪問	
		9	未定	未定	1回生 教師のお仕事入門(小、中、高等学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問	
2		未定	未定	1回生 教師のお仕事入門(小学校・中学校、高等学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問		

平成 27 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

	月	日(曜)	時間	行事名	内容	
4 回 生 対 象 教 員 採 用 試 験 対 策 講 座	実 技	6-	随時	随時	4回生 教員採用(幼稚園含む)特別対策講座 図画工作・音楽実技・小論文・体育実技・他	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくはHPにてお知らせ
		4	25日(土)	4限 14:00-15:30	4回生 教員採用試験 筆記対策講座	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 直前対策 外部講師による講演
	筆 記	5	20日(水)	4限 14:40-16:10	4回生 幼稚園教員採用試験 筆記対策講座	幼稚園教員希望者 直前対策 外部講師による講演
			7	1日(水)	4限 14:40-16:10	4回生 教員採用試験 特別支援教育対策講座
		4	14日(火)	4限 14:40-16:10	4回生 教員採用試験 面接対策講座	面接・エントリーシート対策 志望動機・自己PRのつくりかた
			24日(金)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日>	
		5	19日(火)	4限 14:40-16:10	4回生 教員採用試験 面接対策講座	エントリーシート・面接対策(主に集団面接) 注意と心得及び自己PR
			22日(金)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日>	
		6	24日(水)	4・5限 14:40-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編	模擬面接(集団・個人)・集団討論対策 心得及び実践
			7	1日(水)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編
	7	29日(水)	4・5限 14:40-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 二次編	模擬面接(個人)・集団討論・模擬授業対策等 講義及び実践 二次試験対策	
		6-	随時	随時	4回生 面接・グループワーク練習 (集団・個人・討論・模擬授業等)	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくは、HPにてお知らせ
	8-	随時	随時	4回生 面接・グループワーク練習 (個人・模擬授業・場面設定・討論等)	(事前申し込み制) 模擬面接・模擬授業・集団討論対策 (一次試験合格者対象)	
	教 師 塾 対 策 講 座	説 明 会	1	1日(金)	昼休 12:15-12:55	3・4回生 大阪市教員養成講座説明会
5			8日(金)	昼休 12:15-12:55	3回生 大阪教志セミナー説明会	大阪府教育委員会担当講師による説明
12			12日(火)	昼休 12:15-12:55	3・4回生 堺・教師ゆめ塾説明会	堺市教育委員会担当講師による説明
対 策 講 座		4	18日(土)	午前	3・4回生 教師塾対策講座	各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策 申込書作成についての説明
		5	2日(土)	午前	3・4回生 教師塾対策講座	各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策 先輩のお話を聞き面接やエントリーシート作成の説明及び模擬授業
		2	24日(水)	2限 10:40-12:10	2・3回生 教師塾対策講座	各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策
		3	2日(水)	2限 10:40-12:10	2・3回生 教師塾対策講座	志望動機、自己PRのつくりかた、面接の心得について講義
講 師 登 録 説 明 会		9	29日(火)	5限 16:20-17:50	4回生 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明
		10	30日(金)	5限 16:20-17:50	4回生 講師登録説明会 <予備日>	
教 採 用 内 セ ミ ナ ー		4	10日(金)	午後	4回生 教採用内セミナー <大阪府・大阪市・豊能地区>	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞くことができます
	5	15日(水)	昼休 12:15-12:55	川崎市教員採用試験説明会	教育委員会による説明会 川崎市の教員採用試験について、直接説明を聞くことができます。	
	5	13日(水)	4・5限 14:40-17:50	4回生 教採用内セミナー <和歌山県・京都府他>	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞くことができます	
	12	9日(水)	4・5限 14:40-17:50	3回生 教採用内セミナー (近隣教育委員会)	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞くことができます	
ボ ラ ン テ ィ ア	H27 3	30日(月)	11:30 -12:30	学校支援学生ボランティア説明会・研修会	平成27年度にボランティア活動を行う予定の学生対象 ボランティア登録の手続き、ボランティア先の探し方など	
	H28 3	2日(水)	3限 13:00-14:30	学校支援学生ボランティア修了式	平成27年度にボランティア登録を、活動を行った学生対象 修了証書授与と体験談の発表	
教 職 模 試	4	4	4日(土)	午前	教職模試①(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文
		4	11日(土)	午前	教職模試②(出題:東京アカデミー) 有料	(小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文
		4	25日(土)	午前	教職模試③(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文
	5	5	9日(土)	午前	教職模試④(出題:東京アカデミー) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文
		5	23日(土)	午前	教職模試⑤(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文
	12	12日(土)	午前	教職模試⑥(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
	1	9日(土)	午前	教職模試⑦(出題:東京アカデミー) 無料	(小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養	
	2	6日(土)	午前	教職模試⑧(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養・専門教養	
有 料 講 座	長 期	4-1	随時	6限 16:00-19:30	タニスタ6 基礎学力向上講座	東京アカデミー担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策
		7	10日(金)	昼休 12:15-12:55	教員採用試験対策講座案内他 説明会	有料講座の募集案内や情報収集方法など
	短 期 集 中	8-3	未定	未定	一般教養対策講座	時事通信社担当講師による講義
		9	未定	未定	チャレンジテスト対策講座	次年度以降の採用試験に向けての学習対策
		2	未定	未定	教職教養対策講座	
保 護 者 対 象 説 明 会	6	6日(土)	10:00-13:00	保護者対象 就職説明会	保護者のみ	

【事業報告】

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

——84% が教採合格！「学校教育演習Ⅱ・教育学特講Ⅰ」が目指した力——

浦部 孝英*

1. はじめに

(1) 「就活ルール迷走」(2015年11月10日 日本経済新聞)

2015年度は大学生の就職活動の日程が8月に繰り下げとなったが、早くも「就活ルールは迷走」し、経団連からは、「選考の2か月前倒し」案が出る始末。

(2) 「優秀な人材の囲い込み」(2016年1月4日 同紙)

「17年卒採用 はや号砲」の見出しが躍り、既に2015年12月に内定を出し始めた企業を紹介している。大手企業の選考開始に先んじて採用活動を始めることで、優秀な人材の囲い込みを進めたいという。

(3) 「就活 短期決戦スタート」(2016年3月1日 同紙)

会社説明会などの採用活動が2か月前倒しとなり、1日に解禁される。学生の就活意識は高く、「1日インターン」を活用して志望企業の門をたたく。

教員採用選考テスト（以下「教採」という。）を実施する自治体の面接官は、このようなニュースを、企業が「優秀な人材」を早々と先取りできる羨ましいニュースとして聞く。自分の進路を企業か教職か決めきれていない学生にとっては、毎年のように繰り返される就活日程の変更によって、5～6月の教育実習にじっくり取り組めないのではないかという不安を抱かせるニュースとなる。

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

(4) 「教採に関する報道発表」

教職においても「優秀な人材」の確保は喫緊の課題である。大阪府エリアの各任命権者は、2016年1月から相次いで教採における改正点に関する報道発表を行った。例えば、大阪府教育委員会では、1次試験は「思考力・判断力を測る問題を追加した筆答のみ」となり、「基準点以上の者に対して個人面接」を2次試験として実施。3次試験に進んだ者には、従来の2次選考の内容を3次選考として実施することとなった。どの任命権者においても教職に情熱を持ち、教科専門性を含めて教員として適性のある優秀な人材の確保をさらに推し進めることになる。

企業の就職試験と異なり、教採は合格者の6~7割が講師経験者などの社会人で占められることが多い。教採受験経験があり、教職や社会での経験も豊富なライバルたちと互角の勝負に持ち込むためには、「どんな自分を理解してもらうのか」を明確にしなければならない。自己分析を基に、自分の良さややりたいことをしっかりと見据えた上で、わかりやすく伝える力を磨く面接練習のニーズはますます高くなっている。本稿では、このような面接練習も含め、種々のセンター支援事業を活用した学生が、悩み、苦悩しながらも自分の進路を見出していった様子的一端を報告する。

2. 先ず「自己分析」そこから自分の姿かたちが、そして適性も見えてくる

(1) キャリア教育科目「学校教育演習Ⅱ・教育学特講Ⅰ」の授業を履修した学生

①授業テーマ「敵を知り己を知れば百戦殆うからず」

教員採用選考テストの面接で問われるのは何か。将来、学校教育に携わろうとする者に求められる資質や能力とは何か。自分のどんなところが教員に向いているのか。自己分析を深めていく中で、自分の教員としての適性に気づき、その能力を他者に分かりやすく表現できるように各種面接演習を行う。

教採面接当日一番肝心なことは「自分をどのように語るか」である。「志望動機や自己PRを制する者は面接を制する」のである。十分に自己分析を重ね、個性を前面に押し出しながら、任命権者が求めている人物像にできるだけ迫りたい。

面接官は、受験者の個性を引き出しながら、将来どのような教師になってくれそうか絵を描いていく。受験者が何を「基準」にして、何を「根っこ」にして教職を語っているのか、その話の元となっている「教師像」が鮮明な受験者の話は説得力があり、絵を描きやすい。

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

この授業の中で、本番同様の面接を模擬体験した学生のほとんどが、面接の準備不足を思い知ることになる。限られた時間の中で「教職に適した自分を語る」ことが如何に難しいか。自分の未熟さを知った学生は、「求められる人物像」に照らし合わせて「自分のどこを」を伝えれば良いのかを真剣に研究し始めた。答にかける時間も面接官の尋ね方に応じて15秒程度、30秒程度、1分以内と工夫していった。その後、学生たちは、「自分のよさ」を「教師の立場」だけでなく「子どもや保護者の立場」からも語ることの大切さに気付くようになっていった。

②「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」で表される力を身に付けた教師

「めざす子ども像や教員像」を具現するためには多様な資質・能力が求められる。教採当日、このことを面接官にシンプルに示せる言葉が「一に挨拶、二に笑顔、三四に夢と目標、五に元気」というキャッチフレーズである。

5つの言葉に仕込まれている資質・能力の例は下表のとおりであるが、答えの例はどの枠の答えとしても可能である。どの資質・能力も表裏一体であり相互に関連して成り立っているものだ。

根っこの言葉	面接官の質問と答の例【 】は根っこの言葉に仕込まれている資質・能力の例	
	「めざす子ども像は？」	「どのような教員になりたいですか？」
挨拶	・挨拶ができる子ども ・礼儀やマナーが身についている子ども 【人間関係】	・人権感覚を身に付けている教員 ・人権教育に支えられた学級集団づくりと学力向上を図れる教員 【人権感覚】
笑顔	・学校で「やった!」「できた!」の笑顔がよく見られる子ども ・自分に対する一定の肯定感をもっている子ども 【達成感・自尊感情】	・子どもの笑顔を引き出す専門性と指導力を身に付けている教員 【専門性・指導力】
夢	・夢を語る子ども ・自立心がある子ども 【自立心】	・自立心を育む力を身に付けている教員 ・学び続ける姿勢を身に付けている教員 【自立心】
目標	・目標を立て目標に向かって粘り強く取り組む子ども ・自律心がある子ども 【向上心・自律】	・夢の実現や課題の解決に向けて、具体的な手法を身に付けている教員 ・R-PDCAサイクルを身に付けている教員 【実践力】
元気	・明るく元気な子ども ・心身ともに健康な子ども 【健康】	・心身ともに健康で職務を遂行できる教員 ・ストレス耐性のある教員 【生涯健康】

③学生の特徴

○教採現役合格を目指している学生が多い。

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

- 1 回生の頃から、センター支援ラインナップである対策講座やキャリア教育科目、学校ボランティア等に積極的に参加している者が多い。
- 堺・教師ゆめ塾などの教師塾に通塾中、あるいは、受験して不合格の悲哀を味わっている学生もいる。大阪府の教員チャレンジテスト合格者・不合格者もいる。
- 他大学の学生や一般社会人の中で刺激を受け切磋琢磨している情報を授業中に持ち込み、共有させてくれる学生もいる。
- 教採の実際のレベルで面接練習を実施してもへこたれずに食らいついてくる学生が多い。

このように既に教採のやる気スイッチが ON になっている学生が多いので、例えば「挨拶」や「笑顔」、「夢」や「目標」「元気」等を基準にして志望理由や自己 PR を見直していくと、改めて自分史が整理され、目指すべき将来の自分像や子ども像が見えやすくなる学生が多い。

結果として、この授業に最後までくらいついて面接練習に励んだ学生 32 名のうち、27 名が現役合格となった。合格率は 84% であった。

「教採合格」はゴールではない。センター担当者は、学生に教採の実態を伝え合格を勝ち取るための「里程標」を示していく。その情報が示す道程は学生にとって決してバラ色ではなく、苦手と困難に満ちているようにしか見えないだろう。

しかし、教師になるために何が必要なのかを自らが気づき、資質向上に取り組む学生であってほしい。合格後のいばらの道をしっかりと歩んでいける考え方と対応力を身につけている者が、求める人物像と重なってくるのである。

④学生感想

- 必ず誰かがみんなの前で模擬体験する授業だったので初めのうちは怖かったが、だんだん慣れてきて金曜日が少し楽しくなった。緊張する授業だったが、教採のノウハウが分かり自己分析の考え方が分かった。面接官の考えていることも分かってためになった。
- 教採の実際の面接会場内の空気が初めて分かった。さまざまなタイプの面接官がいることが分かった。どのタイプの面接官に当たっても、自分のよさを素直に出せるようにしたい。面接官も緊張していることが分かり気持ちが少し楽になった。
- 志望理由や自己 PR が自分中心では面接官の深掘りに耐えられない。基準は教育公務員としての立場。子どもを取りまく教育課題について根拠をもって面接官に迫っていく大切さが分かった。
- たかが挨拶、されど挨拶。挨拶に始まり挨拶に終わる。人権教育に支えられた学級集団づ

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

くりと学力向上を面接の軸にしたい。他人の面接の様子を見て学ぶことが多かった。

○あまり緊張せず、教採面接本番に臨むことができたのは、この授業や授業外での先生の熱いご指導を受けたおかげだと思っております。先生ほど緊張する面接官は他にいません！
本当にお世話になりありがとうございました。

(2) センター支援事業にフルエントリーした結果、他業種へ進路変更した学生

この学生は入学当初よりセンターに顔を出し、教職への熱い思いを吐露する一方で、本当に自分が教職に向いているのかどうかについての不安を相談しに来ていた。

教職への適性を知るために、お仕事入門やインターンシップなどのセンター支援事業を活用して学校現場へ飛び込んでみることを勧めた。その後、教職基礎演習や筆答・面接対策講座なども積極的に履修し、介護等体験、学校教育演習、教育実習等、センター支援事業のほぼ全てを履修して自己分析を深めた。

私は、この学生が、学校現場の子どもとの人間関係づくりにやや苦戦していたものの、志を教職一本に定めて懸命に面接練習する仲間にも恵まれて、順調に教職への道を歩んでいると考えていた。

しかし、本人は常に「何に興味があり、どんなことをしたいか。」「何を大切に思うのか。」「何に達成感を感じるのか。」と自問自答していて、ある時ようやく「自分の価値観」に辿り着いたという。その学生曰く、

「それは、学校教育演習の授業で場面指導の練習をしている時。周りのみんなは、どんな場面に出くわそうと、どんな追質問を受けようと、『子どもが好きだから』とか『子どものためになるから』と必死で練習している。そんな様子を見ていて、自分にはやっぱりそのような情熱がない・・・子どもが・・・子どもを相手にする職業には向いていないのでは・・・。」

逆に、介護等の体験を通して、大人の人と触れ合う時に落ち着く自分を感じる。大人と接するときは、義務感ではなく自然に無理せず情熱が注げ、やりがいや幸せを感じることはっきりわかった・・・。」

この学生は、センターを通して、自分の夢や目標とがっぷり四つに組んで自己分析を進めた結果、自分が何にやりがいを感じるのかが鮮明になり、晴れて進路変更となった。この学生にとって喜ばしいことであり新天地での活躍を応援したい。

(3) 教職アドバイザーとの相談活動を活用した学生

センターの支援事業に参加したことのある学生や、センターを情報源の一つとして積極的にかかわってくる学生はもちろんのこと、センター周辺で出会う学生にはなるべく声をかけるようにしている。そんな中で、普段と様子が違うように見える学生には念のため話かけて世間話

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

をしてみる。私の直感は大抵外れるが、時々当たることもある。今年も卒業が近づく頃、何度か話を交わしたことのある2名の学生から丁寧な手紙が届いた。

■（前略）教師という職業は、未熟な私には想像以上に壁が多かったです。「みんなよりできない。」「自分は教師に向いていない。」そんなことを何度も思いました。友人にはなかなか相談できず、親には叱られ、本当に苦しかったです。

そんな中、以前から気にかけていてくださった先生は親身になって話を聞いてくださって、私は救われました。「あなたの温かさが必要な子は必ずいる。」と言ってくださったこと、今でも支えになっています。今、私は頑張れます。4月からは講師として働きます。不安も山ほどありますが自分のやりたいことを見失わず少しずつ成長していきます。（後略）

■（前略）4月からは通信制の大学で免許を取得して来年先生になるつもりで毎日生きています。何度も先生には話を聞いてもらいました。大学生活の中で苦悩もたくさんありましたが、全て自分の力になっていると今思います。そうやって前向きに考えられるようになったのも先生と話せたからこそだと思います。ほんとうにありがとうございました。僕も自分の信念を持って、遠回りではありますが一步一步前へ進んでいきたいと思っています。いつか胸を張って戻ってくるので楽しみにしててください。（後略）

(4) 母校は母港。卒業後もセンターに回帰して学んだ学生

教採の現役合格率は3~4割程度。現役にとって教職への道は厳しく、卒業後の継続的な学びが肝心となる。社会人や講師としての経験を積みながら教採にチャレンジしていた一人の卒業生が、見事合格して手紙を送ってくれた。

■（前略）今年も残すところあとわずかとなりました。2年間、面接練習をしていただいたにもかかわらず、久しくご無沙汰してしまい心苦しく思っております。実はご報告したいことがあり筆を執らせていただきました。

夏に受験した教員採用選考テストに合格することができました。これもひとえに先生の面接練習のご指導のお蔭です。本当にありがとうございました。

本来であれば直接お伺いしてご報告したかったのですが、9月より急遽、バレーボール部の顧問となり、休日返上で生徒たちとボールを追うことになりました。御礼に伺えず書面での挨拶となり申し訳ありません。

また、教職教育センターの職員の皆様、面接練習の際、随分前の卒業生にもかかわらず温かく迎えてくださりありがとうございました。現役の学生の皆さんも一緒に面接練習に付き

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

合っていただきありがとうございました。(後略)

3. 終わりに

(1) 「AI (人工知能) がトップ棋士に勝ち越し」(2016年3月13日 毎日新聞)

グーグルは人間の代わりをしてビジネスに結びつく AI の開発を目指しており、囲碁での勝利は通過点に過ぎず、実社会においてルールがほぼ決まっている定型的な事務業務への AI (人工知能) の参入が加速されるという。

これに先立って、英オックスフォード大学の C・B・フレイ氏、M・A・オズボーン氏が 2015 年 9 月に発表した「雇用の未来」と題する論文は、702 職種をコンピューターに奪われにくい順にランク付けしている。それによると小学校教員の順位は、702 職種中で 20 位という上位にある。

教職に求められる人材の質は特別であり、今のところ教職は AI (人工知能) をもってしても代われない職業ということになる。人のところどころを紡ぐこの職業は、本学の建学の精神である「報恩感謝」のところを基盤にもつ人間味あふれる職業と言えるだろう。

(2) 「報恩感謝」の精神を身に付けた教師として

目指す教師像を考えてみる時、本学の建学の精神は実に含蓄に富んでいる。開学以来、人と人とのつながりを大切にされた教育を脈々と推進してきている本学の第 1 期長期計画【2016-2025】(原案)の 2025 年の大阪大谷大学像のなかに次のようなくだりが見られる。

○「報恩感謝」の心で、自らを高め、人や社会に貢献する能力や態度を育む大学

本学は、大乘仏教の精神である「報恩感謝」を建学の精神とし、自分が無数の「いのち」に支えられていることを自覚し、その恩をたずね、感謝の心をささげつつ生きていく人間の育成を目指している。この「報恩感謝」の心を、正課・課外活動を通じて、学生に深く身につけさせる。このことを通して、学生が自らを磨き高め、人や社会に貢献する能力や態度を育む。

また、2015 大学案内には次のような記載がある。(下線部筆者)

○複雑化する社会、日々激しく変化する時代だからこそ、人の夢や願い＝「想い」も、ますます多様化しています。その一人ひとりの想いを真摯に受け止め、社会に貢献できる人、すなわち、「応える人」を育みたい。そのような教育方針から、『その想いに応える人へ。』というキーワードが生まれました。

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

憧れの職業や理想の未来に想いを抱くだけでなく、社会や他者の想いにもしっかり目を向け、実現させていくチカラを大阪大谷大学で養い、大きく成長してほしいと思います。さまざまな「ひと」と「こころ」を通わせ、これから出会う仲間たちとともに、新しい時代を切り拓いてください。

「Human&Heart」「ひと」と「こころ」を大切に作る大学。

私は、「報恩感謝」の精神には、あるべき教員としての原画が見事に描かれていると感じている。前述した「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」という言葉が示す力と同様で、教採時の志望動機や自己PRを考える時だけでなく、教壇に立ってからこそ、日々この精神に原点回帰し、真にめざすべき教師像として追求し学び続けていきたいものだ。

蛇足ながら、以下は面接のシュミレーションをした草稿段階の面接ノートの一部である。

「あなたは大学4年間で何を学びましたか。」

「どのような教員になりたいですか。」

面接官が小手調べに投げ込んでくる質問に対して、

「はい、私は大学4年間で報恩感謝の精神を学びました。

理想の教師像は、社会人として自立している教師です。

そして、子ども一人ひとりの想いを真摯に受け止め、

社会に貢献できる子どもを育む教師です。」

と、まずは15秒程度で答えてみよう。

「もう少し具体的に話してください。」

「はい、社会に貢献できる力を子どもたちに育むために、
人権教育に裏打ちされた学級づくりをしたいです。

そして、クラスの絆を大切にし、

子どもたちの自立に向けて、

実践的な指導力を発揮できる教師になりたいです。」

面接は「一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気」

「なるほど・・・社会に貢献できる力とはどのようにお考えですか。」

「はい、一に挨拶 二に笑顔 三四に夢と目標 五に元気だと考えています。

この力は、ボランティアに行かせていただいた学校が、

めざす子ども像として実践されていました。

私もこの学校の先生方のように、まず挨拶から人権教育を・・・・・・・・。」

建学の精神を面接の骨格とし、ボランティア等の具体的な体験を内臓や筋肉として体躯を形成しながら、笑顔で元気に教育を語る大阪大谷大学生……。教採当日初めて出逢う面接官と、ところを通わせながら語り合う学生の姿が今後も全国の面接会場で見られることを楽しみにしている。

【事業報告】

教師のお仕事入門

——小学校・中学校・高等学校体験——

井上 雅彦*

1. 目的

- ・小学校・中学校・高等学校を自主的に訪問し、現在の学校現場の実態を学ぶことで、「自分なりの教師像」について考える。
- ・児童・生徒の学びの様子を知るとともに、教職員の職務の一端を間近で体験し、理解を深めることで、教師として必要な資質や能力の向上を図ろうとする意欲を養う。

2. 対象

- ・文学部・教育学部・人間社会学部の1回生で、職業選択の一つとして、教職を視野に入れている学生。
- ・社会人としての自覚をもち、児童・生徒が学ぶ教育現場にふさわしい態度や行動等を遵守できる学生。

3. 内容（場所、年月日、参加者数）

◎小学校

第1回：富田林市立彼方小学校 平成27年5月20日（水）15名

第2回：富田林市立錦郡小学校 平成27年9月14日（月）11名

◎中学校

第1回：堺市立さつき野学園（小中一貫校）平成27年9月8日（火）2名

◎高等学校

第1回：大阪府立富田林高等学校 平成27年9月9日（水）2名

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

大阪府立河南高等学校 平成 27 年 9 月 10 日（木）2 名
第 2 回：大阪府立富田林高等学校 平成 28 年 2 月 10 日（水）2 名

4. 実施概要

◎小学校では・・・

- ・彼方小学校では、はじめに、教頭先生から、学校の取り組みや児童の様子について説明があった。その後、授業を参観し、休憩時間には児童と交流した。
- ・錦郡小学校では、はじめに、校長先生から、教育方針や児童の様子について説明があり、その後、各学級で授業を参観した。給食後は、児童と共に清掃活動を行い、休憩時間には児童と交流した。

◎小中一貫校では・・・

まず、副学園長先生より、小中一貫教育の取り組みの様子や、教員として働く喜びなどの説明を受けた。さらに、元 PTA 会長の地域の方より、保護者の立場から見た小中一貫教育の良さについての話を聞かせていただいた。

その後、校舎施設の案内をしていただいた。小学校の敷地と中学校の敷地は、元々、バス通りを挟んで併設されていたが、一貫校となるのを機に、そのバス通りの上に『なかよしばし』と名付けられた連絡橋が設置され、児童・生徒が、雨に濡れることなく往来することが可能になったという。

3・4 時限目の授業参観は、学生たちが希望する校種・学年・教科の教室に分かれて自由に参観させていただいた。

昼休みは、児童・生徒と一緒に給食や弁当を食べ、その後の清掃活動にも参加した。

学生は、5 時限目も引き続き『なかよしばし』を自由に往来しながら、一貫校ならではの 9 年間の子どもの学びの様子を参観させていただいた。

9 年間で「4・3・2 制」に区切って見直し、発達段階に応じて教育課程を工夫するなど、子どもを取り巻く様々な教育課題に対して、最新の解決方法の一例を目の当たりにすることができた。

◎高等学校では・・・

最初に、校長先生と教頭先生より学校概要の説明を受けたあと、3・4 時限目の授業を参観させていただいた。学生は、各自が取得予定の教科の授業を中心に参観した。

高校を卒業してまだ間もない 1 回生の段階で、自主的に高校現場に足を運ぶことで、教育実

習に赴く前に、教師の視点で学校教育を認識することができただけでなく、先生方が、生徒との触れ合いを通しながら様々な取り組みや工夫をされていることを知ることができた。

授業参観後の「振り返り活動の時間」では、校長先生や教頭先生から、大阪府立高等学校の再編整備や学区制の課題等の説明に加えて、教職員の服務や人事評価制度の概要、チャレンジテストなどのお話も伺うことができた。また、教育公務員特例法など、一般公務員とは異なる心得が必要なこの職業の特性の一端も教えていただいた。

5. 参加学生の感想

【小学校】・小学生たちと10分間ほど遊んだ時間は、一緒に遊べるかとても不安だったが、A君という子とずっとしゃべることができ、うれしかった。

- ・小学生と関わるのがあまりないので、とても貴重な体験をさせてもらいました。授業中の子どもたちは、先生の話をしっかり聞き、先生にほめられたいんだなあと感じました。

【中学校】・コミュニケーション能力を育成しやすくするために、教室の机の配列が、子ども同士で相談しやすい「コの字型」になっていました。また、中学生が小学生の給食の準備や掃除を手伝うなど、実社会において必要な異年齢の触れ合いを学ばせることも一貫教育のめざすものだと知りました。

- ・9年間というスパンの中で、一貫性のある生徒指導や学習指導を継続することの有効性をお聞きして、小中連携の大切さというものが初めて分かったような気がしました。

【高等学校】・落ち着いていて、気遣いのできる生徒が多かったです。挨拶も全員が返してくれました。授業の集中のレベルが高く、先生との信頼関係も良いと感じました。専門教科の力を身につけることと人間的な魅力を身につけることが大切だと感じました。

- ・教師という仕事が想像していたよりも多岐にわたり難しく、18歳からの選挙権など、教育内容も社会のニーズに応じて変化するということを教えていただきました。それに応えられる信頼される教師になるためにこれから大学生活で学ぶことが多いことに気づきました。

6. 成果

「教員になりたい」という思いを持って入学してきた学生が、1回生という早い段階で学校現場を訪問することの意義は大きいと改めて感じた。学生は、「学校現場を知る」「子どもを知る」という体験を通し、教員になりたいという夢の実現を目指し、目的意識を持って大学生活を送ることの大切さを確認してくれたと思う。

学生のモチベーションの高さに応じて、さまざまな成果があったと思われるが、実際に学校現場を訪問して、初めて「教師の視点と立場」で学校を見ることができた。その結果、1回生の段階で、教職への「やる気スイッチ」が入った。

また、小中一貫校を体験した学生たちが「9年間のスパンで、義務教育を継続すること」の大切さを学んだ。

「総合的な学力を向上させるために、自尊感情や規範意識をいかに醸成するか。」という今日的な教育課題に対して、即効性のある解決策ではないものの、「4・3・2制の学校の仕組み」や「義務教育9年間を見通した子どもの育ちと学びの系統性」を意識した教師の取組みを垣間見ることができたことは、将来どの校種を志望する学生であれ、実に有意義なことであった。

学生たちは、「子どもの視点と立場」から見えてきた課題に対し、子どもの発達段階に応じた一貫性のある生徒指導や学習指導を継続することの大切さを学ぶことができた。

昨今、自治体によっては、小中一貫教育の推進を視野に入れた教員採用選考枠を設けるところもある。学生たちは、自分の志望校種と異なる校種に身をおくことで、子どもの発達段階に応じた教育の在り方を実感し、自分がどの成長過程での教師として適しているのかを見極める絶好の機会となったのではないだろうか。

(2) 課題

小学校については、2回目は、長期休業期間中で、参加しやすいはずであるが、1回目よりも少なかったのが課題である。授業だけでなく、給食・清掃・遊びなど様々な体験ができるので、今後も、参加者を増やす働きかけをしていく必要がある。

小中一貫校については、前期・後期とも大学の長期休業中の実施であるため、1日中じっくりと参観・交流体験ができるが、参加者が少ないという課題が残った。今日的な教育課題の一つである、いわゆる中1ギャップ等への対応策を体感するためにも、一貫校での体験は大変貴重であるため、参加者数を増やす働きかけを徹底していきたい。

高等学校については、本年度も前期・後期とも2校に受け入れていただくことができたが、見学を希望する教科が偏るため、教科ごとの参加可能人数について、受入校との調整が今後も

必要である。